

島原半島の古戦場

全 般

島原半島の古戦場で、歴史的変化の意義が大きい戦いについて、生起時期順にその意義と概要について紹介します。

島原半島の古戦場所



参考写真：登丸籠



原城跡全景(ユネスコ世界文化遺産)



①沖田畷(おきたなわて)合戦 1584 年

北側に龍造寺軍 2 万 5 千、南則に島津・有馬連合軍約 1 万の合戦でした。龍造寺軍の総大将龍造寺隆信は首を掻き取られ、本格的戦闘は 1 日で勝敗が決しました。

このことにより、島津氏の九州覇者の地位が決定しました。

織田信長が桶狭間の戦いで、圧倒的優位な今川義元を討取り、天下の覇者端緒となった合戦に似ています。

②口之津の事件(島原の乱発火戦闘) 1637 年 10 月

3 年連続の飢饉で多くの餓死者が出ていたにも拘らず、年貢取り立てが厳しく、庄屋の息子嫁(臨月期)を登丸籠(トマルカゴ)参考写真に押し込め、川に浸ける水攻め拷問し、母子ともども殺してしまいました。絶望した近隣百姓約 800 人が駐留していた島原藩責任者の家老を襲撃して、瞬く間に島原の乱へと拡大しました。

③島原城下の襲撃 1637 年 10 月

上記逃亡した島原藩責任者の家老を追撃し、島原城城下を 5~6 千の一機勢力が襲撃し、実質石高 4.2 万石に比し、10 万石規模の備蓄をしていた鉄砲等の武器や兵糧米の多くを確保し、島原の乱終焉の地、原城籠城での合戦で用いられました。

④原城籠城決戦(島原の乱) 1637 年 11 月~1638 年 2 月 28 日

一機軍約 3.7 万(半数以上は婦女子と老人)

幕府軍当初数万 → #3 総攻撃時約 12 万

参考動画 URL: <https://kirishitan.jp/components/com001>

・ 12 月 20 日幕府軍 #1 総攻撃

総大将として任命された板倉重昌(イタクラシゲマサ)は三河の小大名であった為、九州の大名軍勢を主力とする幕府軍は各正面で勝手に戦況を評価・判断して戦闘を行い、総攻撃は全面失敗となりました。

・ 1 月 1 日幕府軍 #2 総攻撃

総大将重昌は、状況全般を評価して持久戦を決断しましたが、幕府軍側の事情により、再びの総攻撃の方針となりました。幕府軍側の統制の欠如状況に変わりは無く、重昌以下の軍勢約 300 名は孤軍突進して、全滅してしまっ

・ 2 月 27 日幕府軍 #3 総攻撃

幕府は総大将に筆頭老中の松平信綱を任命し、幕府軍側の統制力を抜本的に強化し、総勢 12 万の兵力をもって、多正面からの波状攻撃により原城攻略を実施しました。

原城籠城一揆側は全員がなで斬り殺害され、遺体は見せしめのために 130 年に亘って放置され、腐乱し、白骨化して、風化する状況を強いられました。